

佐賀市市民訪問団が姉妹都市グレンズフォールズ市を訪問 ～バルーン（熱気球）が縁の姉妹交流～

ニューヨーク事務所

佐賀市と米国グレンズフォールズ市（Glens Falls City、ニューヨーク州）の姉妹都市締結 25 周年を記念して、2013 年 4 月 10 日～15 日にかけて、秀島敏行佐賀市長、福井久男佐賀市議会議長をはじめ市民参加者を含む総勢 27 名の市民訪問団が、グレンズフォールズ市やニューヨーク市等を訪問しました。一行は、友好提携先のグレンズフォールズ市での記念行事のほか、ニューヨークでは日本国総領事大使公邸での歓迎会などに参加しました。当事務所を代表し総領事大使公邸での歓迎会に出席する緒方所長に随行する機会を得たため、その様子を含め、佐賀市とグレンズフォールズ市の姉妹都市交流について報告します。

1. 姉妹都市締結の経緯

佐賀県の県庁所在地である佐賀市は人口約 24 万人を擁する同県最大の都市で、行政、経済の中心地です。また、国内外から 100 機を超えるバルーン（熱気球）が集まる、アジア地域で最大規模のバルーン競技大会「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」が開催される地として、全国に知られています。

佐賀市とグレンズフォールズ市の友好提携は、今年で 35 回目の開催を迎え、今や佐賀市の代表的行事ともなったこのバルーン競技大会がきっかけで始まりました。1986 年に開催された同大会に、グレンズフォールズ市のパイロットであるリン・カーシュナーさん



「佐賀インターナショナルバルーンフェスタ」が参加し、大会の素晴らしさと市民の親切さに触れ、地元の国際交流団体に働きかけたことが契機となったものです。この働きかけによって、グレンズフォールズ市から姉妹都市提携を申し込まれた佐賀市では、姉妹都市検討懇話会を設置し、1988 年、議会議決を得て姉妹都市締結に至りました。

ニューヨーク州の北東部、アディロンダック山脈(Adirondack Mountains)の東方に位置するグレンズフォールズ市とその一帯のウォーリン郡(Warren County)は、美しい自然に恵まれた地域です。また佐賀市と同様、今年で 40 回目を迎える歴史あるバルーン競技大会「アディロンダック・バルーン・フェスティバル」が開催される地として知られています。

1988 年の姉妹都市締結以降、両市は「姉妹都市教育交流生徒訪問団」として、中学生、高校生の相互派遣事業を継続しているほか、それぞれのバルーン競技大会にチームを相互派遣するなど、積極的な交流が続いています。

2. 市民訪問団訪米概要

この度の訪米では、米国での実質滞在日数5日間というタイトなスケジュールの中、姉妹都市であるグレンズフォールズ市での交流行事への出席のほか、バルーン競技大会の会場があるクインズベリー町(Town of Queensbury)、ニューヨーク総領事公邸での歓迎会出席、ワシントン D.C.での日本大使館訪問など、多くの日程をこなしました。

佐賀市からは、市長をはじめ、市議会議長、教育長、国際交流協会会長等の市関係幹部に加え 20 名の市民参加もあり、同市の姉妹締結 25 周年記念行事への力の入りようが伝わってきます。日程の合間を縫って行われた在米日本大使館、領事館との交流も、今後のグレンズフォールズ市とのさらなる姉妹交流継続の一助となるものでしょう。

グレンズフォールズ市滞在中は、現在の市長に加え、姉妹交流協定調印時の西村元佐賀市長を知るグレンズフォールズ元市長なども参加されるなど、盛大に歓迎会が開催されたようです。現地では、秀島市長自ら、かつて同市との青少年相互派遣事業で息子が佐賀市へ訪問した経験のある家庭を訪ねる機会をもたれるなど、首長が率先して交流に取り組みました。

こうした様子を伝え聞くにつけ、どれだけ電子メールやインターネットなどの情報技術が発達しても、人と人が顔を付き合わせて行う交流に優るものはないことを改めて認識させられます。

渡米初日に開催されたニューヨーク総領事大使公邸での歓迎会では、“バルーン”が縁となり結ばれたグレンズフォールズ市との交流の経緯などについて、秀島市長から説明があったほか、廣木大使及び当事務所緒方所長から歓迎の挨拶がありました。公邸では訪問団一行は邸内を見学することができ、歴史を感じさせる建築と美しい装飾や調度類も堪能しました。一行は、日本から米国に到着したばかりではありましたが、領事館職員や当事務所職員らの温かい歓待を受け、長旅の疲れも癒された様子でした。



(参考) ニューヨーク州地図

佐賀市、グレンズフォールズ市の双方が交流事業を継続してきた努力が姉妹締結 25 周年を迎えることができた最大の要因ですが、このように領事館をはじめとした側面からの支援も不可欠だったと言えるでしょう。大使公邸での歓迎会では、姉妹交流に対する双方の思いと、それを支援する環境が整ってこそ、息の長い交流が実現できることを強く認識させられました。



総領事大使公邸での歓迎会の様子（左写真：秀島佐賀市長挨拶、右写真：廣木大使挨拶）

3. 所感

2013 年 3 月末現在、クレアが把握する姉妹都市提携数 1,635 のうち、米国自治体との姉妹提携数は 440 で国別では最も多くなっています。しかし、バブル経済の崩壊、自治体の財政悪化など日本国内の経済状況などを背景とし、米国自治体との提携数は近年横這いを続けています。その一方、実利を期待できる経済交流を中心として、特定分野に限定した交流へと自治体側も軸足を移しつつあります。

海外自治体との姉妹都市交流は、その成果を数値化することが難しく、とかく数値目標が求められる近年、自治体の厳しい財政状況も相まって、多くの自治体で予算の縮減や事業規模が縮小される傾向にあるのが実態だろうと思います。

そうしたなか、遠く離れる佐賀市とグレンズフォールズ市が脈々と姉妹交流を継続していることは、北米地域を所管する当協会ニューヨーク事務所職員として大変心強く感じました。

中学生、高校生の相互派遣事業に参加した若者は将来の日米関係を何らかの形で支える人材の一人になるでしょう。バルーン競技大会への参加者は、それぞれの大会を世界に PR する広告塔に成り得ます。そうした参加者の周囲にも彼らが経験した多くが伝播していくものと思われまます。国際友好親善、世界平和などを目的として、1955 年、日本で最初の姉妹都市提携が長崎市と米国セントポール市 (Saint Paul City) の間で結ばれて以降、現在では世界 64 か国地域との間で姉妹提携が結ばれるに至り、交流形態も多様化する今日ではありますが、相互訪問を継続する従来型の交流事業の重要性は何ら変わることは無く、長期的な視野

に立ち、交流事業を継続する両市の姿勢に多くを学んだ思いであります。今後も両市の交流が続き、一層活発なものとなることを期待しています。

(吉川所長補佐 島根県松江市派遣)

